

第 44 回海洋開発シンポジウム（2019）前日シンポジウム  
「わが国における洋上風力発電の可能性 -北九州港響灘地区の取り組み-」

わが国における風力発電の導入量は、NEDO によると 2017 年度では設備容量約 350 万 kW、設置基数 2,253 基となっている。このうち、本格的な洋上風力発電施設はわずか十数基にとどまっており、それらの洋上風力発電施設の多くは実証試験の段階である。しかし、洋上風力発電は日本の将来に不可欠な事業であるとの認識から、固定価格買取制度（FIT 制度）や港湾区域における占有公募制度などの制度が立ち上がり、また技術的なガイドラインやマニュアルも整備されつつあり、洋上風力発電の実用化気運が高まってきてている。事実、大規模な洋上風力発電施設、すなわちウインド・ファームの計画が各地で立てられてきている。そのなかでも先駆的な取組がここ北九州市ではじまっている。そこで、本シンポジウムは、様々な切り口から洋上風力発電の可能性を明らかにすることを目的としている。

1. 主題 わが国における洋上風力発電の可能性 -北九州港響灘地区の取り組み-
2. 共催 土木学会海洋開発委員会、北九州市
3. 実施日時・場所 2019 年 7 月 1 日（月） 15:30～17:30 北九州国際会議場 2F 国際会議室  
(<http://convention-a.jp/kokusai-kaigi/>)
4. 講演者・講演題目
  - 1) 開会挨拶・趣旨説明（5 分）：  
小島治幸（九州共立大学名誉教授）
  - 2) 基調講演（40 分）：  
牛山泉（足利大学理事長）「洋上風力発電の主力電源化に向けて」
  - 3) パネルディスカッション（70 分）：オーガナイザー永井紀彦（（株）エコ一常任顧問）  
米山治男（国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 海洋研究領域長）  
「技術的な課題に対する解決方法の可能性」  
国土交通省港湾局  
「再エネ海域利用法について」  
光武裕次（北九州市港湾空港局理事）  
「北九州市の取組～「グリーンエネルギーポートひびき」事業の進捗～」  
寺崎正勝（ひびきウインドエナジー（株）取締役）  
「響灘洋上風力事業の取組みと事業から見えてきた課題」
  - 4) 閉会挨拶（5 分）：  
下迫健一郎（海洋開発委員会委員長）
5. 参加費：無料
6. 申込み：土木学会 HP からお申し込みください（締切 6/14）
7. 定員：140 名（先着順）